式　辞

冬の寒さも日ごとに和らぎ、校庭の木々にも新しい春の訪れが感じられるこの佳き日に、
ご多用の中、
ＰＴＡ会長 姉崎健司（あねざきけんじ）様、
同窓会会長 大和久米登（やまとくめと）様、
保護者の皆様のご臨席を賜り、ここに令和四年度、第七五回卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもちろん、在校生、教職員一同、大きな喜びであり、心よりお礼申し上げます。

ただいま、卒業証書を授与いたしました一二九名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。

今日の日を迎え、三国高校での生活の様々な思い出が甦ってきているのではないかと思います。また、この日まで、お子様の勉学を支え、励ましてこられた保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。

令和元年末に突如現れた新型コロナウィルス感染症は、令和二年春の休校期間をはじめ皆さんの高校生活に影響を与え続け、今年度も猛威を振るいました。しかし、皆さんは様々な困難や制約に動じることなく、日々の学習や部活動、学校行事において、今できることを全力で取り組んでくれました。

特に、二日間の日程で行われた学校祭。テーマは「Ballare(バラーレ)」。イタリア語で「踊る」を意味しますが、皆さんの躍動がとても印象的でした。一日目、三国町体育館を会場としたステージ発表は大きなスクリーンと文化委員会による音響や照明等の演出もすばらしく、見応えのある発表でした。午後の校内祭では、手作りのゲームを展示したアトラクション部門、文化部展示、執行部企画と、制約がある中での準備であったにもかかわらず内容の濃いものでした。二日目の体育祭。競技はもとより、アイデア満載の衣装を身にまとった応援合戦や各色の特徴を活かしたデコ。全力で競い合い、終わって互いをたたえ合う姿がとても印象的でした。感動をありがとう。

さて、三国高校は文部科学省『地域との協働による高等学校教育改革推進事業』に指定を受けて三年目でした。「地域とともにある学校」として、地域活性化のための探究学習を、地域の人々と協働して進めています。

一年生の総合的な探究の時間に取り組んだ「空き家活用プロジェクト」。都市計画の専門家や大学院生から、講義やアドバイスを受けながら、空き家の効果的な利用法として「イベント」を企画・立案・発表・実行し、三国にふさわしいまちづくりについて考察しました。

安島地区の「もっこ刺し」を紹介し、挑戦できる『安島 MOCCO』、三国祭を体験できる博物館をコンセプトにした『二組祭』、子どもをターゲットに体験活動で三国を知ってもらう『くらふとぱーく』、けん玉などで遊ぶことができる『むかしあそび～ふれあいの場～』。

地域の方からの協力を得て、工夫を凝らし、ふるさとの未来に必要なことや、自分たちにできることは何かを考え活動していました。

二年生では、一年生での学習を発展させ、地域が抱える課題とその解決策について坂井市役所の助言をもらいながら、課題解決に向けた探究学習を進めました。各グループのアイデアは、「三高地域魅力化プロジェクト発表会」において、坂井市議会議員および市役所職員に向けてプレゼンテーションを行いました。

皆さんは、この三年間、日々の学習で幅広い知識と視点を身につけるとともに、探究学習をとおして「自分らしく」社会に貢献する経験を積み、行動する力をつけてきました。地域は学習の素材であり、「空き家」をはじめ皆さんが取り組んだ坂井市の課題は一地域にとどまらず日本全国、そして世界が抱える課題に通じています。

今、世界は様々な困難に直面しており、それを解決していかなくてはなりません。昨今話題になっている持続可能な開発目標 SDG’s 一七項目もそれに向けた取り組みです。グローバル化や急速な情報化、人工知能の進化など、将来の変化が予測できない時代でもあります。社会の変化に受け身になるのではなく、主体的に課題を見つけ、自分事として他者と協働しながら、答えのない課題にも粘り強く向かっていき、よりよい社会と幸せな人生を自ら創り出していく力が必要です。

皆さんが本校で身に付けた四つの力、「究める力」「挑む力」「結ぶ力」「愛する力」を大いに発揮してくれることを期待しています。将来、社会の一員として地域を「愛し」、多くの人と縁を「結び」、課題に「挑み」、「究め」ていく。活躍している皆さんの姿を見ることが、送り出す私たちの願いです。

最後になりましたが、保護者の皆様には、様々なご苦労を乗り越えられ、本日を迎えられたことと思います。この三年間、本校の教育活動にご協力いただきまして誠にありがとうございました。

本日、成長著しいお子様を保護者の皆様と一緒に送り出せますこと、教職員一同誇りに思っております。卒業生の皆さんの洋々たる前途が健やかに、そして幸多からんことを祈念し、式辞といたします。

令和五年三月一日

福井県立三国高等学校長　冨澤宏二